

# 第3回 国際協力セミナー 報告

## アフガニスタンで働く国連職員のお話を聞いてみよう！

講師：講師：古屋敷久美氏 (Programme Officer, UNDP Afghanistan)

Mr. Etienne Careme (Emergency & Rehabilitation Coordinator, FAO Afghanistan)



日時：2006年7月18日 17:00-19:00

参加者：18人

プログラム：

17:00- 自己紹介

17:05- アフガニスタンの状況、国連開発計画、国連食糧農業機関での仕事

17:40- 質疑応答、国際機関で働きたい人に

18:00- レセプション

議事：(写真スライドを用いたプレゼンテーション。写真の解説を中心に)

【自己紹介】

【アフガニスタンの状況】

古屋敷氏：休暇中ということもあり、堅い話ではなく、写真を使いながらアフガニスタンの紹介と自分たちの仕事を紹介したいと思います。特に、フィールドの様子も出来るだけお伝えしたいと考えています。

Mr. Careme

\*1

未亡人に対する支援で、シャベルとバケツを供与しています。夫を亡くしているため、生きていくための道具を支援することは非常に重要な任務になっています。

\*2

カンダハールの写真です。非常に治安状況は悪化しています。

\*3

子どもを持った未亡人が多くいます。

\*4

遊牧民はブルカをかぶらない人も多くいます。

\*6

パシュトゥン人で、裨益者集団の一つです。

\*7

現在、アフガニスタンには難民が非常に多く発生しています。特に、2001年の戦争あとは、パキスタンやイランからもやってきました。彼らが生活を再開できるような支援をするのも重要な役割です。

\*8

カブールの北部です。

\*9

このように、伝統的な美しい細工がアフガニスタンにはあります。

\*10

鳥かごです。アフガニスタンには鳥を戦わせる娯楽があります。

\*11

国技で、男たちが馬に乗り戦います。4つの民族が戦います。人が命を落とすこともまれではありません。

\*13

足を切断しなければならなかった女の子です。彼女の元々の傷は足を切断するほどひどいものではありませんでしたが、両親が病院に連れて行かなかったため、足を切断しなければなりません。病院は1 km先にあり、無料で診療されるにもかかわらず、です。この子の両親にその理由を尋ねたところ、彼女が「女の子にすぎない」からで、また子供が多すぎて全ての子どもを病院に連れて行く余裕はない、とのことでした。

伝統スポーツで命が失われることも多々あり、このようにアフガニスタンでは命の価値、がわれわれのそれとはやや異なります。

\*14

強制移住を余儀なくされた人々の写真です。

\*15

地雷で障害者となった人たちは、アフガニスタンには世界で2番目にたくさんの地雷が埋められています。これを全て除去するには100年がかかるといわれています。

\*14

地雷のような人災だけでなく、自然環境も大変厳しく旱魃、日照り、土砂崩れなどが頻繁に発生します。

\*15

虫害も多く発生しています。

\*16

ロシアが進行してきた際の戦車です。

\*17

北部地方の典型的な町並みです。

\*18

東部地方では、北部より良質の米がとれます。

\*19

もと兵士たちの職業訓練です。

\*20

FAOが支援した食糧庫です。この倉庫で病害、虫害の多くを防ぐことが可能です。

\*21

ベルギー軍のヘリコプターです。国連と各国軍隊は緊密な連携をとりあい、情報交換を活発に行っています。また、復興・開発活動作業も共に実施しています。

\*22

家禽を売買する市場です。このように、動物の移動も頻繁に発生するため病気が非常に広まりやすい要素があります。

\*23

アフガニスタンは非常に乾燥した国であるため、ホコリの問題も発生しています。

\*24

ブルカで全身を覆った女性です。

\*25

アフガニスタンの典型的な料理です。

\*25

ラバも多くいます。

\*26

FAOの裨益者たちです。

\*27

口蹄液病が多く発生しています。

\*28

ヤギは重要な家禽です。

\*31

アフガニスタンではヘロインの栽培が盛んに行われています。  
現在、その大体作物として、サフランの栽培を試みています。

\*32

このように村の男たちの会合も開かれます。

\*34

トルクメニスタン系の女の子です。  
パシュトゥン、アザハール、クチ、トルコ、さまざまな民族がいます。

古屋敷氏

私は、アフガニスタンに派遣されて半年になりますが、ほぼオフィスワーク中心です。フィールドに出たのは1度のみで、この状況からもいかにアフガニスタンの治安が悪化しているかが分かります。移動は非常に制限されていて、隔離されている、といってもいいかもしれません。いつも国連の車で移動し、市街を歩き回ることすらできない中でほんとうにアフガニスタンの人々を助けられるのか、というジレンマはあります。

\*1

外国人用のスーパーマーケットには何でもそろっています。パキスタンから輸入されています。赴任される前は、何も無いところかと考えていましたが、実は何でもそろっています。

\*2

国連の車には必ずアンテナがついており、どこにいるかが常に分かるようになっています。また、職員も必ず無線機を携帯しており、毎日決まった時刻に無線が入り、身の安全が確保されているか、また無線機に異常がないかをチェックします。

\*3

外国人がいけるマーケットです。

\*4

カブール市のすぐ近くにある地雷原です。

\*5

不法占拠者たちの住宅です。アフガニスタンでは国内避難民も発生しており、UNDPは、彼らの再定住を促進しています。私は特にこの業務、いわゆる都市計画にかかわっています。

\*6

地雷には様々な問題が付随しています。たとえば、これは地雷があるところにしるしをつけた写真ですが、雨がふったり、ちょっとした理由で地雷は移動します。

\*7

カブール市内の電化率は6%に過ぎず、地方部では0.3%足らずです。

\*8

典型的なパン屋さんです。

\*9

外国人用の酒屋です。アフガニスタンはイスラム教国なので、これは特に地元の人々の目に触れないように購入する際には特に気をつけなければなりません。

\*10

これまでアフガニスタンのネガティブな面をたくさんお見せしてしまいましたが、その一方で、私は非常に美しい国だと思っています。特に自然環境が素晴らしいです。

\*11

日本政府のODAで、びっくりするほどたくさんの日本人が働いています。

### 【質疑応答】

Q；日々の生活での難しさは何か？

古屋敷氏；地元と外国人の隔離に非常に矛盾を感じます。お伝えしてきたように、セキュリティが非常に厳しいです。職場と自宅の往復しかほぼできません。UNで職員は6週間毎に1週間休暇をとることができますが、毎日同じ場所に同じ人と過ごすストレスは非常に大きいです。

Mr. Careme；毎日、強いストレスを感じます。私が始めてアフガニスタンに足を踏み入れた2002年、治安はまだましでした。しかしここ2年で治安は悪化しており、過激派の脅迫、誘拐、自爆テロが絶えません。このため、道を歩くなどはもちろんのことテラスに出て食事を出すことすらできないのです。

外出するときは常に国連の車、しかも外出ビザを取るのに48時間かかります。ピクニックに行くのも容易ではありません。

古屋敷氏；治安上の問題から、かならず男性を含む3人で外国人はすまなければなりません。また、入居先も多くの条件を満たさなければなりません。たとえば、鉄製のドア付き防空壕、ガラスの窓には全てフィルムシートを添付、塀は少なくとも3.8m必要です。それに加えて、ガードマンを雇わなければなりません。

Q；国連ではどういう人がいるのか？

古屋敷氏；バックグラウンドの人が様々な分野で働いています。

Q；国際機関で働くために、学生として何をすべきか。どのような準備が必要か。

古屋敷氏；国連は、「ネットワーク」と言い換えることができます。様々な人が要求されて、本当に一概に言うことはできません。ただ、修士号は必須ですね。

Mr. Careme；僕はジャーナリズムで修士号を取得し、民間企業で働きました。そこでの経験を買われてFAOで始めは技術者として入り、その後現在の「emergency coordinator」になりました。

古屋敷氏；私が思うことは国連で働くこと、それ自体は決して「ゴール」ではない、ということです。重要なことはそこで何を成し遂げるかです。確かにUNは、給料はいいし、休暇取得も簡単です。だけれど、それに甘んじているようではいけません。

Mr. Careme；そうですね。特にUNが派遣される紛争後の国は治安もよくありません。

古屋敷氏；国連の職員として大きな仕事は、どのように同僚とうまくやるか、ということもあります。バックグラウンドが多様であるのに加えて、人の入れ替わりが非常に早いのです。特にアフガニスタンのような治安が悪い国では顕著です。たとえば、アフガニスタンはUNのセキュリティ基準3にあります。これは、家族を同行できないレベルです。このため、大体3ヶ月ほどしかいません。2年、3年いる人は非常に滞在期間が長い、といわれています。これはシステム上の問題ともいえます。というのも、UNは給料が良いのです。通常の基準に加えてアフガニスタンの場合、危険手当も出ます。ですから、人がたびたび変わり非常に効率も悪いのです。これまで、ネガティブな面ばかりを言ってしまいましたが、非常に魅力的な場であることは確かです。

Mr. Careme；K u m iはJ P Oですが、僕はプロジェクトベースで働く、コンサルタントとしてFAOと契約しています。一度UN機関で働くとその後の契約が結びやすい、という状況は間違いなくあります。まあ、機関ごとの違いも確かにあります。たとえば、UNDPは人を非常に育てようとしています。このため、キャリアサポートなども多くあります。その一方でFAOは自分で全てやらなければなりません。僕は国際機関は「恐竜」のようだと考えています。つまり、非常に大きいため、動きがゆっくり、ということは否めません。官僚化も進んでいますし、多くの困難があります。

あと、僕が思うのは「正しい人」と知り合いになることです。コネ、ということではなく、ネットワークの中でどのような動きが生じているのか、を知るの大きなポイントになります。

Ota；今日は生徒のためにこのような生のお話をありがとうございました。そろそろ時間ですので、それではラウンジに移動して話の続きをしましょう。

K & E；このような機会を頂きありがとうございました。

#### 【参加者の感想から】

●まず写真を流しながら現地の様子を語っていただけたことで、国際協力の最前線の様子がリアルに伝わってきました。文字ベースのスライドに沿ってお話していただくよりも、実際の現場の雰囲気や伝わってくる発表の方が将来的に現場中心に活動することになるであろう自分にとってはすごく惹きつけられました。

また、現地での体験の他に、国際機関へのapplyの仕方やrecruitingの仕組みについてもお話

いただき、非常に参考になりました。

国際公務員になるための形式上のシステムについては web 上等でいくらでも情報はありますが、なかなか実際の動き方や対策法となると、やはり face-to-face で生のお話をお聞きするのが印象に残るし、最善であると感じました。実際、昨日のお話を伺って、国際公務員になるために求められるスキルというものは、もちろん修士号や語学力、専門分野における実績も大事なのですが、それよりも何よりも、国際協力に対する情熱、自分をうまく他人に売り込む力、ひいては幅広く深い人脈が最も大切だということがよくわかりました。【M2】

●今回のようなセミナーがあることで、研究対象の地域以外の現状を知ることができ、大変勉強になった。世界で起こっている様々な事例を知っておくためにも、今後さまざまな地域の話を知りたい。【M2】

●なかなか聞けないお話、見れない写真、新鮮でした。また、UN で働くにはあのレベルの英語が必要なんだなあと痛感しました。【M1】

●国際協力専攻として、国際機関のお話を聞ける機会があることは大変嬉しく感じる。【M2】

議事録担当：小島海（M2）